





〈特集〉シルク岡谷の記憶を紡ぐ

# 旧岡谷市役所庁舎

旧岡谷市役所庁舎は、日本の近代化を支えたシルク岡谷の歴史を有形で現在に伝え、完成から今日まで岡谷市とともに歴史を刻んだ、まちの大切な財産です。

築85年を迎えるいまなお威容を誇るこの建物を、歴史とともにひもといていきます。



# シルク岡谷の記憶

## 旧岡谷市役所庁舎 当時のようす

1. 二階議場 2. 市庁舎外観南西 3. 洋風のしつらえが美しい応接室 4・5. 一階の事務室と窓口カウンター  
6. 議場を使い行われた展示会 7. 議会の様子 8. 完成間近の庁舎

人の発起人とともに低コストの機械製糸工場「中山社」を立ち上げました。その後、蚕の品種改良など、製糸家たちの努力もあり生産量が増した岡谷産の生糸は、徹底した品質管理により

**岡** 谷にもその波は訪れ、明治8年、平野村の三代目武居代次郎氏は、安価で性能に優れた「諏訪式繰糸機(そうしき)」を発明して生糸の生産性を飛躍的に上げる土台をつくり、9

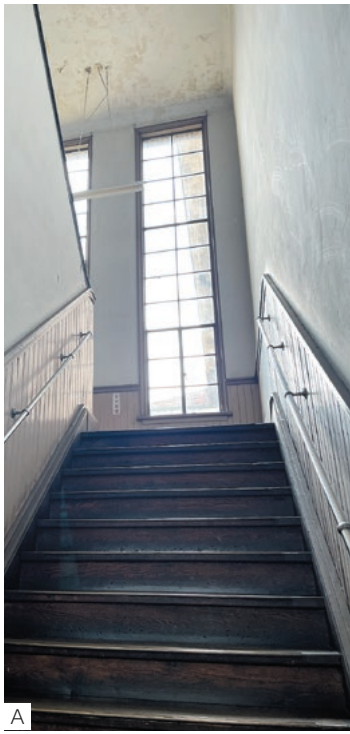
国に機械製糸工場がつくられていきました。

上を急ぎ、明治5年に官営の富岡製糸場をつくりました。その後、これを模範工場として、全国に機械製糸工場がつくられていきました。

**信** 州は古くから生糸の産地で、江戸末期、岡谷地域の各村では、近江商人を介して「登せ糸(のぼせいと)」を京都の西陣へ送っていました。明治に入ると、政府は富国強兵をめざし、外貨獲得のために生糸の品質改善・生産向上を急ぎ、明治5年に官営の富岡製糸場をつくりました。その後、これを模範工場として、全国に機械製糸工場がつくられていきました。

業の歴史をひもといていきましょう。

**旧** 岡谷市役所庁舎は、鉄筋コンクリート造二階建て、タイル貼りの外壁に洋がわら屋根のモダンな外観で、当時としては先進的な建物でした。しかし、建てられた当時は世界的な不況の時代。なぜこの苦しい時代にこのような建物をつくることができたのか。これを知るために、製糸業の歴史をひもといていきましょう。



A



B



C



D



2



3



1

## 旧岡谷市役所庁舎 現在のようす

A. 真鍮(しんちゅう)製のフレームに、ゆらぎのあるガラスがはめこまれた趣のあるスリット窓。高揚感に包まれて階段をのぼると、窓越しにスクラッチタイル貼りの外壁が見えます。B. 外観デザインのアクセントにもなっている議場の円窓。船室をも思わせる凝ったデザインに、当時の優雅さがあふれています。C. 議場の裏にある議会控室。その後、市長室として使われていました。天井が高く、細工が施された腰壁と赤いじゅうたんに気品が感じられます。D. 議場として使われていた部屋。円窓と高窓から入る光が美しい。かつては正面に壇があり、天井はさらに高く、シャンデリアがしつらえてありました。(右写真1)



旧岡谷市役所庁舎横に建てられた覆屋付きの尾澤福太郎像

おもな参考文献：  
岡谷市史  
岡谷製糸王国記(市川一雄・あざみ書房・2018)  
夢を馳せて(小口俊郎・野口謙一記念誌刊行会・1990)

の銅像が建てられています。

一晩考えて翌日にこれを快諾したといわれています。こうして建てられたのが、旧岡谷市役所庁舎です。これによって庁舎が整い、昭和11年3月31日の新庁舎での平野村最終村会を経て、同年4月1日、晴れて平野村は岡谷市になりました。この貢献を讃え、庁舎横に尾澤福太郎氏の銅像が建てられています。

製糸業の不振に苦しむ村民の心を奮い立たせ、多角的な工業都市として再出発するために、昭和8年以降、村会は本格的な市制施行への準備を進めました。施行のための必要条件のひとつに、庁舎の整備があり、当時の村長 今井梧楼は製糸家 尾澤福太郎氏に寄贈を要請、尾澤氏は

## 栄

華を極めた岡谷の製糸業ですが、昭和4年の世界恐慌による不況で、苦しい状況

にありました。この行き詰まりの村政を転換し、製糸業の不振に苦しむ村民の心を奮い立たせ、多角的な工業都市として再出発するために、昭和8年以降、村会は本格的な市制施行への準備を進めました。施行のための必要条件のひとつに、庁舎の整備があり、当時の村長 今井梧楼は製糸家 尾澤福太郎氏に寄贈を要請、尾澤氏は

質が一定に保たれたことで「信州上一番格(しんしゅうじょういちばんかく)」と格付けされました。品質、供給ともに安定した岡谷産のシルクは世界市場を制し、大正時代、シルク岡谷は全盛を迎えていくこととなります。

# 歴史をつむぐ

岡谷市文化財保護  
審議会会長  
宮坂 正博さん

岡谷・諏訪地域の建物の歴史を研究している岡谷市文化財保護審議会会長の宮坂正博さんに、知られざる旧岡谷市役所庁舎についてお話を聞きました。

手作業で完成した  
美しいモダン建築

旧岡谷市役所庁舎は、昭和初期に建てられた製糸業の面影を残す貴重な建物です。今でも目を引くモダンで美しい外壁は、大正末期から昭和の初めにかけて帝国ホテルで使われてブームになった、スクラッチタイルと呼ばれるタイルが貼られています。このタイルは、諏訪式練糸機（平野村の三代目武居次郎氏発明）に使われていた陶製鍋を作った高遠の丸千製作所（丸千憲で焼かれていて、当時、いかに製糸業がこの土地に根付いていたかを思い起こさせます）。

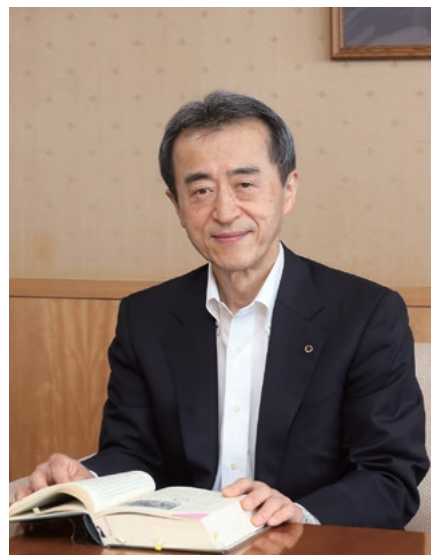
設計者は、長野県宮織課の技手・三苫みとま繁實しげみ氏ほか。工事費は当時の金額で約9万円と言われていて、これは現在価値にすると1〜2億円ほどになると見込まれます。個人の寄附額としては破格のこの金額を、製糸家 尾澤福太郎氏が個人として全額を寄附したのですから、製糸家の心と財の豊かさに驚かされます。

そんな近代的な建物ですが、建設当時と現在で



令和3年現在のようす。美しく保たれた外観は当時を思い起こさせます。

市民、岡谷市、国が誇れる  
貴重な建物の姿を  
後世に残していくために



旧岡谷市役所庁舎は、日本の近代化を支えたシルク岡谷の歴史を有形で現在に伝え、完成から今日まで岡谷市とともに歴史を刻んだまちの大切な財産であり、私たち市民や岡谷市、また国にとっても大切な財産であります。そのため、この貴重な建物をしっかりと後世に残していくことは私たちに課せられた大きな使命のひとつだと考えております。

この度、市民のみならずから建物の保全を望む声や寄附の申し入れをいただいたことから「旧岡谷市役所庁舎保全基金」を設置いたしました。今後、建物の保全、改修に備え、この基金を計画的に積み立ててまいりますので、市民をはじめ、この取り組みに賛同してくださるみなさまのご協力をよろしく願いたします。

岡谷市長 今井 竜五



岡谷市文化財保護審議会 会長  
宮城 正博さん

諏訪総合設計株式会社代表。  
平成15年に旧岡谷市役所庁舎の耐震診断に携わる。文献や資料を読み解きながら郷土の建築について研究を重ねている。

は建設工法、材料などに大きな違いがありました。現在、建物基礎の割栗石は機械で突き固めますが、当時は石を一つひとつ並べ砂利を入れて人力で突き固めていました。また、壁のコンクリートも、手作業で少しずつ練ったものを、ロープで型枠の上まで持ち上げて流し込んだと思われれます。どちらも気の遠くなるような、手作業での工事だったはず。施工を請負った野口謙一氏（岡谷組・当時44歳）は、厳しい冬季の工事だったにもかかわらず、このような状況を克服し、耐久性が高く品格のある建物を完成させたという記録が残っています。さらに、この工事を約10か月の短さで完成させたのは、工事に携わった多くの人々の力と強い思いがあったからにはありません。後の助役小口文人氏（昭和44〜57年在任）は、折に触れ、職員や関係者にこの建物のすばらしさを説いていたといえます。「壁に亀裂がみられない」「縦樋が冬季凍らない」など、設計の段階でよく考えられていたか、施工の技術力か、見習うべき点がたくさんある、と話していたそうです。

旧岡谷市役所庁舎は、岡谷市にとって貴重な建物であり、私も引き続き検証を続けていきたいのですが、建設当時の資料は少なく、工事の詳細はあまりわかっていません。当時、工事に携わった方などがいらっしやいましたら情報提供をいただければ幸いです。

# DATA of

## 旧岡谷市役所庁舎

### 《年表》

昭和10年6月	着工
昭和11年3月	竣工
昭和11年4月	岡谷市制施行
昭和62年まで	岡谷市役所庁舎として使用
平成17年	国登録有形文化財に登録
平成19年	近代化産業遺産群に指定
平成27年まで	諏訪広域消防本部岡谷消防署として使用

### 《建物概要》

鉄筋コンクリート造 2階建  
延床面積… 1545.85 平方メートル  
建築面積… 792.15 平方メートル

### ■近代化産業遺産群とは

日本の経済産業省が認定している文化遺産の分類。平成17年1月30日に33件の「近代化産業遺産群」と575件の個々の認定遺産が登録されました。平成19年2月6日に「統33」として新たに33件の「近代化産業遺産群」と540件の個々の認定遺産が追加されています。

### ■尾澤福太郎

（おびわくたろう・1860年〜1937年）  
明治から昭和にかけて、製糸業にて成功した実業家。家業である尾澤組を株式会社化して社長に就任し、日本で有数の大規模な製糸事業を展開した。諏訪の六大製糸家のひとりと呼ばれる。岡谷市制が施行された際には、私財を投じて市庁舎を建設し、市に寄贈したことも知られている。



昭和11年の旧岡谷市役所庁舎。庁舎右側には尾澤福太郎氏の銅像。

## 旧岡谷市役所庁舎保全のため みなさまからの寄附を募集しています

旧岡谷市役所庁舎は、建築から85年が経過しており、経年劣化が進行しています。みなさまからのご寄附は、外観デザインを維持しながら長寿命化・安全確保により適正な保存を図るための財源として積み立ててまいります。

### 寄附の方法

- ①ふるさと納税での寄附の場合  
寄附金の使い道を「旧岡谷市役所庁舎保全基金」に指定してください。
- ②市役所窓口での寄附の場合  
岡谷市役所企画課までお持ちください。

問合せ●企画課（内線1528）